

Surgical

CCT 2017

Complex Cardiovascular Therapeutics 2017

Dates ▶ **October 26** thu. - **28** sat., 2017

Venues ▶ **Kobe International Exhibition Hall**
Portopia Hotel, Kobe, Japan

ポスターセッション演題募集

受付期間 | 2017年7月31日(月)正午まで

CCT2017 Surgical では“手術での工夫”をテーマにし、「こうして危機を脱した1例」など、学会では取り上げにくい症例を募集いたします。
優秀症例は、10月28日(土) 14:50~15:20のCase Presentationにて口述発表を行っていただきます。また、当日は最優秀演題が選出され、受賞者には表彰状および記念品が贈呈されます。今回は40才以下の若手に限定して、多数の皆様のご応募、ご参加をお待ちしております。

演題募集要項・詳細 ▶ http://cct.gr.jp/2017/calls/poster_surgical.html

事前参加登録

受付期間 | 2017年9月15日(火)まで

事前参加登録費.....15,000円 ※当日登録費は18,000円
(CCT2017 Surgical 2日券)

CCT Website ▶ <http://cct.gr.jp/>

CCT Administration Office

1-1-5-2E, Maedaminami-machi, Toyohashi, Aichi 440-0851, Japan
Tel +81-532-57-1275 Fax +81-532-52-2883 E-mail secretariat@cct.gr.jp



S CCT2017 Surgical

Complex Cardiovascular Therapeutics 2017

会期 **2017年10月27日(金)・28日(土)**

会場 **神戸ポートピアホテル**

Course Directors

大川 育秀

豊橋ハートセンター

岡本 一真

明石医療センター

北村 英樹

名古屋ハートセンター

坂口 太一

心臓病センター榊原病院

田端 実

東京ベイ・浦安市川医療センター

津久井 宏行

北海道循環器病院

代表

心臓血管外科の手術成績は、年々向上し、合併症を有する患者さんや超高齢者に対しても安定した成績を提供できる時代となりました。手術成績向上には、知識や経験の蓄積とデバイスの向上などのScienceの部分と、外科医の技術であるArtの部分が両立する事で達成されます。

一般的な学会が主にScienceの発展に寄与する機会であるとしたら、Artの発展に寄与して来たのがCCT Surgicalと言えるのではないかと思います。CCT Surgicalでは、ライブ手術とVideo Liveを柱とし、実践的な手術手技に焦点をあて、自由闊達なディスカッションを行うことに重きをおいて参りました。

2017年のライブ手術は、神戸大学 大北裕先生による弓部置換術と、武漢アジア心臓病医院の菊地慶太先生によるMICS CABGを予定しています。同時進行で開催されるVideo Liveでは、榊原記念病院 高梨秀一郎先生によるHOCMに対する外科的治療、ニューハート・ワタナベ国際病院 渡邊剛先生によるda Vinciを用いたRobotic Surgeryを予定しています。その他にもインターナショナルセッションや、最近の話題であるTAVIやオープンステントに関するセッション、メディカルイラストレーションの描き方講座など、参加者の皆さんに「来てよかった!」と言っていただけるよう魅力的な企画が目白押しです。多くの皆様と神戸でお会いできる事を楽しみにしております。

10月27日(金)

9:00~11:50 **Surgical Live Demonstration 1**

Live 弓部大動脈置換術 ●中継施設: 神戸大学

Video Live HOCM

二年ぶりのCCT surgicalは白熱のライブ手術から始まります。今回は弓部大動脈置換術が確立される過程で中心プレイヤーとして活躍してこられた大北裕先生の集大成とも言える弓部大動脈置換術です。並行して、近年、HOCMの外科治療に積極的に取り組む高梨秀一郎先生による左室流出路心筋切除術のビデオライブを上映します。お二方の手術方針、こだわりテクニックや工夫など、その最前線を勉強しましょう。コメンテーターも、この術者お二人にコメントするにふさわしい当代のフロントランナーに集まっていたいただきましたので、このライブでしか味わえないエキサイティングな議論をお楽しみください。

12:00~13:00 **Luncheon Seminar 米国における経カテーテル弁膜症治療の最前線**

今回のランチョンランチョンセミナーでは、ニューヨーク大学のDr. Mathew R. Williamsを招待しました。Dr. Williamsは米国で初めてcardiac surgeryとinterventional cardiologyのトレーニングを終了した両刀使いの若手心臓外科医で、TAVRだけでなくあらゆる経カテーテル弁膜症治療の第一人者として活躍中です。インターベンションができる心臓外科医はこれから日本でも必要になってきます。自身のキャリアメイキングや米国での最新のカテーテル治療について、興味深い話が聞けると思います。

13:10~14:40 **Session 1 外科医のためのTAVI講座:そろそろ本気でTAVIやりませんか?**

TAVIはすでにAS治療において標準的治療のひとつになっています。大動脈外科医がステントグラフトを無視できないように、弁膜症外科医もTAVIを無視することはできません。本セッションでは、TAVIの現状と将来展望、外科医のためのTF-TAVI、経皮的アプローチ、外科的アクセスのレクチャーに加えて、本音でハートチームを語るパネルディスカッションを企画しています。

14:50~16:20 **Session 2 弁周囲逆流に対する最新治療:カテーテル治療か外科治療か?**

人工弁置換術後の弁周囲逆流に対する治療として、海外を中心にカテーテル的塞栓術が注目されています。本セッションでは、最新の経カテーテル治療の適応、アクセス、方法、成績を学びます。同時に本邦の標準的治療である外科的治療についてもその適応、アクセス、方法、成績について学び、これからの弁周囲逆流治療の展望について議論します。

16:30~18:00 **Session 3 オープンステントグラフトの活用法**

Open Stent Graft (OSG)の登場に伴い、大動脈瘤に対する外科的治療戦略は大幅に広がり、かつ、安全に施行可能となりました。OSGの適応や手術方法、合併症などについて議論を深めながら、TEVARとの使い分けや組み合わせ法などについて、ディスカッションをしたいと思えます。

18:10~19:10 **Evening Session CryoICEを用いたメイズ手術:My techniques, tips and pitfalls**

1987年にDr. Coxが考案されたメイズ手術が誕生し、今年でちょうど30年目にあたります。これまでに多くのデバイスや手技方法でのメイズ手術が開発されており、近年メイズ手術件数は増加しています。その中で、本邦でも2016年から新たな凍結凝固装置が使用可能となりました。本セッションではAtriCure社クライオアブレーションシステムの使用経験が豊富な先生方からテクニック、コツ、ピットフォールを学びます。

10月28日(土)

9:00~11:50 **Surgical Live Demonstration 2**

Live MICS-CABG ●中継施設: 武漢アジア心臓病医院

Video Live ロボット支援手術(OPCAB, MVP)

2日目のライブはMICSに焦点をあてました。今やMICS-CABGの第一人者として国際的に活躍されている菊地慶太先生に、多枝MICS-CABGのライブ手術を中国武漢から中継してもらいます。また渡邊剛先生にはda Vinciを使ったロボット支援手術(OPCAB, MVP)のビデオライブをお願いしています。MICSが注目を集めるなか、実践的な議論ができるセッションにしたいと思います。

12:00~13:00 **Luncheon Seminar 手術記録に生かすメディカルイラストレーション術**

手術記事に添えられた1枚のイラストは、手術内容を的確に伝える力を持っています。手術内容を的確に記録し、後世に伝達する上で有用な情報伝達ツールと言えます。しかしながら、3次元情報を2次元情報に落とし込む作業は思いの外難しく、多くの外科医が「もっと、上手にイラストを描けないものだろうか」と感じているのではないのでしょうか。本セッションでは、メディカルイラストレーションの描き方を学ぶ機会としたいと思います。

13:10~14:40 **Session 4 アジアのスター発見!**

Asia-Pacific地域は世界人口の約4割という膨大な人口を擁し、世界のGDPの約6割を占める、いま世界で最も重要な地域です。当然、心臓血管外科の分野でも世界に向けてしっかりと発信している若手外科医がいます。世界的にimpactを与える学術誌の編集委員であったり編集者として既存の欧米エスタブリッシュメントの壁をどう打ち破るのか?Asia-Pacificにおける人材交流やトレーニングプログラムの共有をどのように考えるか?彼らのユニークで前例にとられない姿勢からAsian-Pacificの心臓血管外科の未来像が見えてきます。

14:50~15:20 **Case Presentation Call for cases!**

CCT2017 Surgical では「手術での工夫」をテーマにし、「こうして危機を脱した1例」など、学会では取り上げにくい症例を募集いたします。基本はポスターでの発表となりますが、優秀演題は、本セッションにて口述発表を行っていただきます。その中から最優秀演題が選出され、受賞者には表彰状および記念品が贈呈されます。今回は40才以下の若手に限定して多数の皆様のご応募、ご参加をお待ちしております。

演題募集要項・詳細 ➡ http://cct.gr.jp/2017/calls/poster_surgical.html

15:30~17:00 **Session 5 出血なければ3時間!? ~出血させないベントールの基部吻合法~**

自己弁温存の基部再建が盛んになりつつありますが、Valve conduitを用いたベントール手術も重要な術式の一つです。基部再建手術では、基部からの出血があると、止血が非常に困難で時間を要します。出血が無く、再現性がありSpeedyな吻合法とはどんなものなのか?今回は、ベントール手術での基部吻合法のような工夫を、エキスパートの先生方に紹介していただきます。「出血さえなければ3時間くらいで終わらせられるのに・・・」、そんな忸怩たる思いを払拭するために、エキスパートの先生方の様々な工夫をぜひご覧いただき、是非とも理想を現実にご覧ください。